

<とりたいけれどとれないなあ、でもとりたい！>

赤ちゃんは、初めのうちは、仰向けに寝たままで頭上にあるものを見て過ごします。天井からつるしたメリーなどを、目で追っていますよね。そのうちに、手が動かせるようになると、両手を自分の目の前に持っていき、手を動かしながらじっとみつめて遊ぶようになります。お母さんがその手を握ってくれたり、おもちゃを持たせてくれたりするうちに、少しずつ自由に動かせるようになり、自分の目の前に出されたものに、手を伸ばすようになっていきます。自分の手でつかめた時には、とてもうれしそうです。手と目の力を協応させながら、少しずつ、距離感をつかみ、物に手が届くようになっていきます。

仰向けに寝ているときに、少し離れたところにあるおもちゃを見つけると、一生懸命手を伸ばして取ろうとします。「とりたいなあ、でもとれない…」「でもとりたい！」・・・それを毎日繰り返していくうちに、いつかくると寝返りができるようになります。

首が座り、寝返りができるようになると、今度は腹ばいで一定時間遊べるようになってきます。仰向けで寝ていた時とは力の使い方も変わりますし、見える世界が変わってきます。少しずつですが、両腕で自分の身体を支え、周りの様子や友だちのことは見回すこともできるようになります。すると、今度は先のほうにあるおもちゃが目に入り、「触りたいなあ」と、意欲がわいてきます。一生懸命手を伸ばし続けると、ついにハイハイへと、つながっていくのです。（初めは、手足に力を入れると、逆に後ずさりをしてしまう場合もありますが）

このように、子どもたちは、「こうしたい！」と意欲を持って行動した結果、発達
の壁を乗り越えて、成長をしていきます。ですから、いつも大人がおもちゃを与えて
しまうのではなく、少し先にあるおもちゃに気づかせ、「手に入れたい」と、子どもが
自ら意欲を持って手を伸ばすような環境を設定してあげることも大切です。

私たちは、子どもが意欲的に行動できるようになって欲しいと考えています。それは、将来、遊びたい、学習したい、スポーツをしたい・・・といった様々な活動への意欲につながるからです。そのためにも、いろいろな場面で、子どもが自ら手を伸ばす、選択する、ということを経験させ（その間、大人はじっと見守り）、自分で選んだことを尊重し、喜びや自信につなげていくことが大事です。

（文 ここすき！プロジェクト保育士）

